

心の知覚と 道徳的判断について

唐沢かおり
東京大学人文社会科学研究科

動物化・モノ化→非人間化と道德

- 動物化・モノ化＝人としてのカテゴリーから排除し、人間性を否定する
- 道德的排除の一形態 (Optow, 90)
 - 当該の対象を道德的価値やルール適用外に置くことや道德的なコミュニティから排除することの一形態
- 認知メカニズムへの影響 (Bandura, 02)
 - 他者を傷つけることに由来する道德的な自己制裁を機能しないようにする。つまり攻撃行動をとっても、自分を責めたり共感からくるストレスを経験せずにすむ
- 道德的扱い⇔人間としてみる

ふたつの「人間とは」



- 人間性：モノとの違い

- 基本的感情、主観的経験、温かさ、意志（エージェンシー）（Haslam et al., 05）
- 生まれつき、通文化的（人という種が持つもの）、人という種の本質（Haslam, et al., 04）

- 独自性：動物との違い

- 利他的価値・道徳的責任や洗練された感情（Schwartz & Struch 89；Demouling et al., 04）
- 言葉、高次認知、洗練された言語（Leyens et al., 01）
- 学習・経験により獲得、社会・文化を反映する・本質化されていない（Haslam, et al., 04）



モノ化・動物化がもたらすもの (Haslam et al., 05など)

- モノ化→人間性の否定
 - 感情や温かさ、エージェンシーに欠けているとみなされる
 - 他と代替可能である存在だとみなされる
 - 無関心・距離を置く
 - 対個人として生起しやすい
- 動物化→独自性の否定
 - 洗練さや道徳的な感性、高次認知に欠けているとみなされる
 - 自己統制ができない存在・未熟な存在だとみなされる
 - 軽蔑・嫌悪
 - 対集団として生起しやすい

モノ化・動物化がもたらすもの (Haslam et al., 05など)

- モノ化

- 感
- 他
- 無
- 対

- 動物化

- 洗
- 自
- 軽
- 対

心の機能の知覚



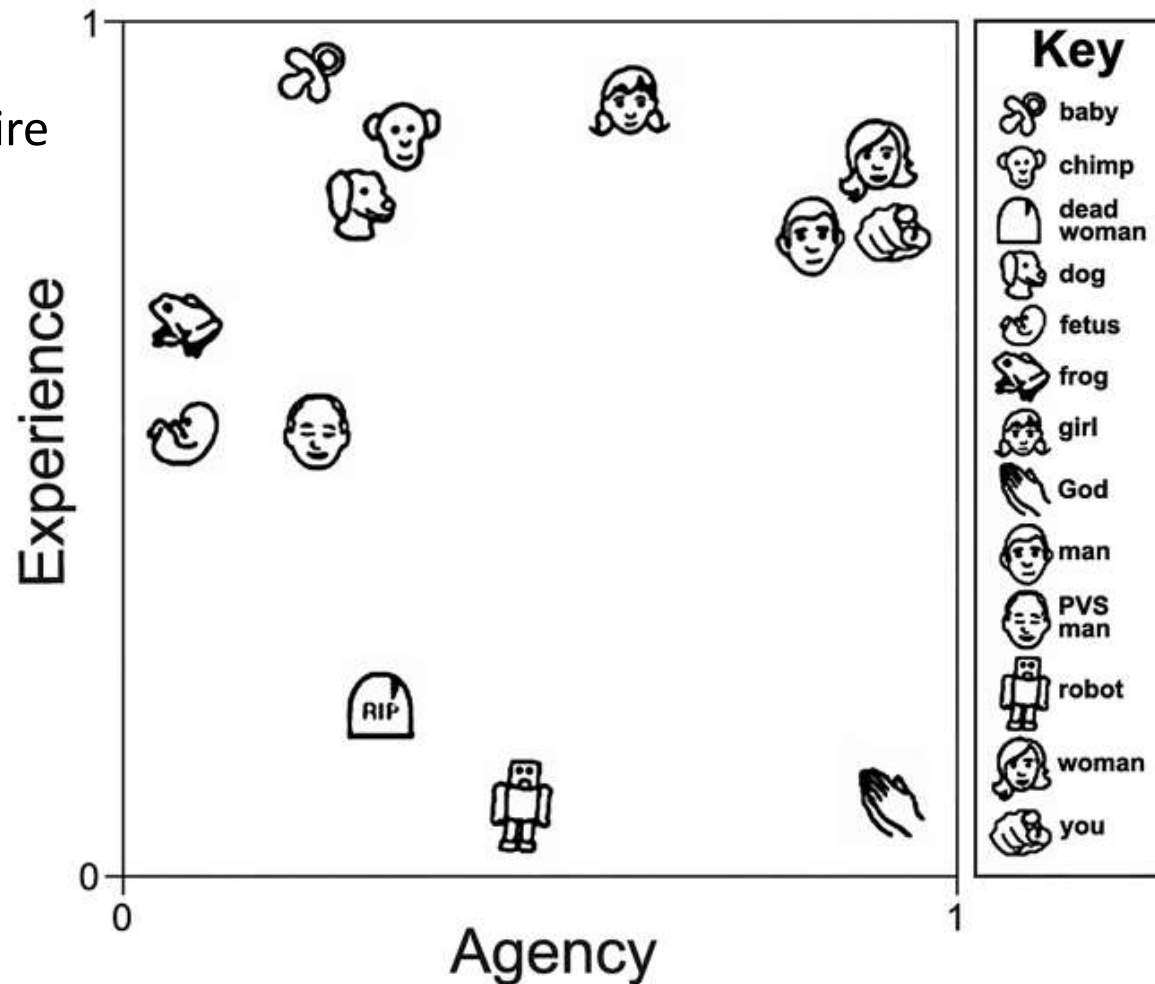
非人間化・道徳的コミュニティ
からの排除、差別的取り扱い

Mind surveys (Gray et al., 07)

- 7週目の胎児
- 生後5か月の乳児
- 5歳の女の子
- 大人の女性
- 大人の男性
- 植物状態になってる男性
- 回答者自身
- カエル
- 飼い犬
- 野生のチンパンジー
- 死んだ女性
- 神
- 人と相互作用するロボット
- 心的機能に関する項目について、任意の2エージェントを提示して比較評定
 - Which character do you think is more capable of feeling joy?
- 主成分分析で「軸」を抽出
- 飢え、恐怖、痛み、喜び、怒り、欲求、プライド、意識
- 自己統制、道徳性、記憶、計画力、思考、コミュニケーション

2つの知覚次元

hunger, fear,
pain,
pleasure,
rage, desire
など



self-control, morality,
memory, emotion
recognition, planningなど

心の知覚と道徳的な対人態度

- 同様に2エージェントを提示して、傷つけることへの痛み、他者を死なせた際の罰について質問
 - Painful to harm: If you were forced to harm one of these characters, which one would it be more painful for you to harm?
 - Punish for death: If both characters had caused a person's death, which one do you think would be more deserving of punishment?

	Painful to harm	Punish for death
Agencyとの相関	.26	.82
Experienceとの相関	.85	.22

各次元と道徳

- Agency(主体性): 行為に責任がある、責めを負う、賞賛を受ける、善悪を知って行為する、意図を持つなど
- Experience(経験性): 良いまたは悪い行為を受けるキャパシティにより定義、ターゲットとして害されるか、助けられるのかなど
- それぞれには、異なる道徳的立場(役割)が連合している
 - Agencyが高い→道徳的行為の与え手(主体: Moral agent)になりやすい
 - Experienceが高い→道徳的行為の受け手(客体: Moral patient)になりやすい

Moral typecasting (Gray & Wegner, 09)

- 道徳的な出来事や行為→行為主体とその受け手(客体)から構成される
 - 加害者－被害者、支援者－受け手
- 社会がMoral agentとMoral patientから構成されるとみる、対人認知・関係認知のスキーマが作動、MAとMPは「逆相関」
- たとえば…
- 加害される→MPの役割付与→経験性の知覚→主体性の知覚の低下→道徳的責任付与の低下

心を持たないと想定される対象への拡大

- 脳死状態の人への態度
 - 心の知覚と臓器移植に関する態度との関連
 - ←臓器を「取る」～Moral issueとしての反対と賛成
- ロボットへの態度
 - ロボットとの相互作用が将来的に予期される状況において、我々はどのように振舞うのか
 - ←ロボットの心の知覚が取り扱いに影響する可能性
- 心の知覚研究の「実践的意義」に関する議論

脳死患者の心の知覚と臓器提供への態度

(唐沢・橋本・伏見, 2015)

- 脳死＝一般的には「心的機能の多くが失われている状態」と認識
- 親族であるほど心を知覚する？
- 心(特にExperience)を知覚するほど、臓器提供に抵抗感？
- 家族(母親)または第三者が脳死状態であるシナリオを提示し、心の機能の知覚と臓器提供への「賛成－反対」を測定
 - Experience: 痛み、恐れ、歓喜、空腹、願望、喜び、怒り、欲求、困惑、楽しみ、悲しみ、満足感
 - Agency: 自己コントロール、道徳性、記憶、感情、認識力、計画性、コミュニケーション能力、意思決定

シナリオ

あなたは(Aさんは)、都内在住の学生で両親とともに暮らしています。ある日、あなたのもとにあなたの母親が交通事故に遭い、現在治療中であるとの連絡が入りました。あなたの母親は頭を強打しており、現在、意識不明の重体であるとのことでした。その後数日間治療が続けられましたが、あなたの母親は意識不明のまま回復しませんでした。医師はあなたとあなたの父親から承諾を得た上で、法で定められた手続きに則り、あなたの母親の脳死判定を行いました。その結果、**あなたの母親は脳死状態であるとの判定が下されました。その後、医師はあなたとあなたの父親に対し、二人が承諾すればあなたの母親の臓器を他人に提供できることを説明しました。あなたの母親は、臓器提供について事前の意思表示は行っていませんでした。**

心の知覚: Agencyに関する因子分析 (N=76)

項目	Factor1	Factor2
意思決定	.901	-.119
コミュ能力	.895	-.034
計画性	.728	.161
自己コントロール	.430	.283
感情	-.144	1.042
認識力	.188	.711
道徳性	-.006	.561
記憶	.067	.520

Agency項目が2因子に分離

自律的決定力

基礎的機能

	1	2	3	4
1. 臓器提供への賛意				
2. Experience	-.30 **			
3. Agency 総合	-.31 **	.68 **		
4. Agency(自律的決定力)	-.33 **	.57 **	.84 **	
5. Agency(基礎的機能)	-.22 +	.61 **	.90 **	.53 **

ExperienceとAgencyは、ともに臓器提供への賛意と負の相関関係

従属変数：臓器提供への賛意	
	β
Experience	-.16
Agency (自律的決定力)	-.25 +
Agency (基礎的機能)	.01
Adjusted R ²	.09

しかし、Agencyを2次元に分けて投入すると、自律的決定力のみが有意傾向

⇒「本人の意志」に反する(またはそれが未確認状態での)臓器提供への抵抗？

ロボットの心の知覚 (谷辺・橋本・唐沢、2015)

- Agency— Patency と心の知覚の関係がロボットにも拡大できる
 - 道徳的行動の対象となる(傷つけられた他者)→経験性の知覚(Ward et al., 07, Gray & Wegner, 09)
- 行為者が自己の場合、行為のValenceの効果があるのでは？
- 親戚の家の人型家事ロボットが故障した場面で、あなた(自己)、またはあなたの親戚(他者)がロボットに対して、
- ドライバーで突き刺す／ドライバーで修理する／隣の部屋に運ぶ
- ロボットの心の知覚とロボットに対する保護意図やモノ扱い・加害への抵抗感(行動意図)を回答

提示したシナリオ

あなたの親戚の家には家庭用人型ロボットの HK-12 がいます。HK-12 は掃除や洗濯などの家事をしたり、子どもたちの遊び相手をしたりして、あなたの親戚にとって大切な存在となっています。HK-12 を買って数年が経ったある日、あなたが親戚の家を訪ねると、掃除や洗濯ができていませんでした。HK-12 を探すと、手や腕が無意味に動くだけで、仕事をこなすことができなくなっていました。**あなたは腹を立て、ドライバーで HK-12 を突き刺しました。**あなたがドライバーで HK-12 を突き刺したようすを思い浮かべてください。その場面を思い浮かべたら、以下の質問にお進みください

あなたは(あなたの親戚は)心配し、ドライバーでHK-12を修理しました。
あなたは(あなたの親戚は)HK-12を隣の部屋に運びました。

心の知覚項目

痛みを感じる性質
喜びを感じる性質
恥ずかしさを感じる性質
人格を持つ
意識を持つ
空腹を感じる性質
楽しみを感じる性質
怒りを感じる性質
誇りを持つ
欲求を覚える性質
恐れを感じる性質
計画的に行動する能力
自分をコントロールする能力
記憶する能力
思考する能力
コミュニケーション能力
道徳的にふるまう能力
感情を理解する能力

行動意図項目

まだ動くのに捨てる
バットで殴る
暴言を浴びせて罵倒する
見下して、ばかにする
売ってお金にかえる
分解して、部品を再利用する
汚れを落としてあげる
いじめられていたら助ける
溝にはまって動けないときは出してあげる

結果 (N=187)

- 心的機能の知覚の因子分析で2因子抽出
 - Agency項目（思考する、コントロールする、記憶する・・・）
 - Experience項目（痛みを感じる、喜びを感じる、意識を持つ・・・）
- 行動意図と抵抗感項目について3因子を確認
 - 保護（汚れを落としてあげる・・・）
 - モノ扱い（まだ動くのに捨てる・・・）
 - 加害（バットで殴る・・・）
- 行為のValenceの効果は見られなかった

心の知覚が行動意図に及ぼす影響

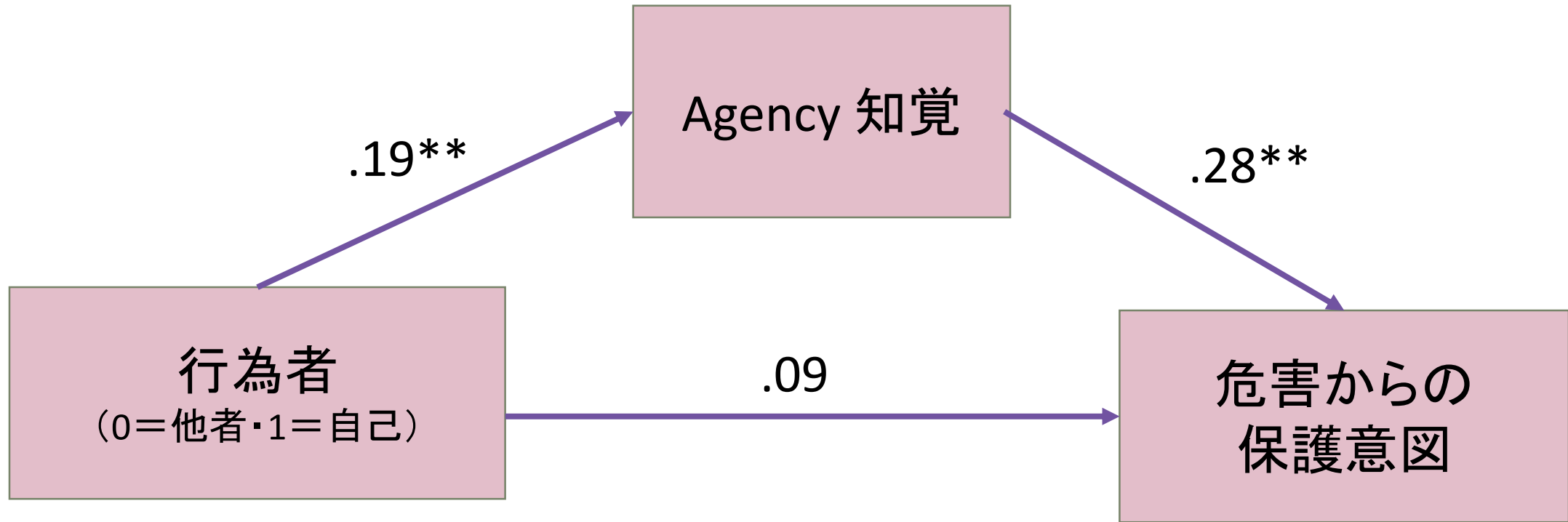
数値は標準化偏回帰係数(β) * $p < .05$, ** $p < .01$

	保護	反モノ扱い	反加害
Agency知覚	.31**	.10	-.02
Experience知覚	-.03	.39**	.23**
R ²	.09**	.20**	.05*
adj R ²	.08	.19	.04

→ 尊重すべき存在と
している？

→ 「生き物」として
している？

ロボットにAgencyを知覚するほどの保護意図が高まり、Experienceを知覚するほどモノ扱いへの抵抗感と加害への抵抗感が高まっていた



シナリオ中における行為者が自己の場合にはロボットのAgencyを高く知覚し、Agencyの知覚が高いほど危害からの保護意図が高まる

自己と対象との相互作用場面を想起⇒相手の行動を予測する必要？相手を行為する主体と認知する⇒Agency知覚？

今後は？

- 心の機能の知覚の観点から、道徳的判断・行動が分析可能
- 心を持たないとされる対象についても、その議論が拡大可能
 - 応用的・実践的な意義があるかもしれない
 - 心の知覚と道徳的判断・行動との関係に関する一般的な理論へのフィードバック
- 関係の詳細、調整要因、媒介要因は、なお検討が必要